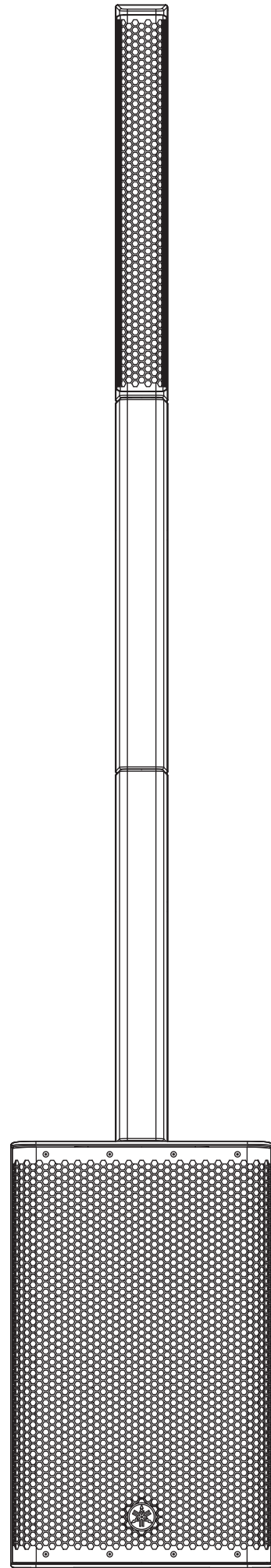




POWERED SPEAKER SYSTEM  
SYSTÈME D'ENCEINTES AMPLIFIÉES  
SISTEMA DE ALTAVOZ ACTIVO  
АКТИВНАЯ АКУСТИЧЕСКАЯ СИСТЕМА  
有源音箱  
主動式喇叭  
앰프내장형 스피커  
パワードスピーカーシステム

# DXLINK

- EN** Owner's Manual
- DE** Benutzerhandbuch
- FR** Mode d'emploi
- ES** Manual de instrucciones
- PT** Manual do Proprietário
- IT** Manuale di istruzioni
- RU** Руководство пользователя
- ZH-CN** 使用说明书
- ZH-TW** 使用說明書
- KO** 사용설명서
- JA** 取扱説明書



English

Deutsch

Français

Español

Português

Italiano

Русский

简体中文

繁體中文

한국어

日本語

# 安全上のご注意

ご使用前に、必ずよくお読みください。

## 必ずお守りください

ここに示した注意事項は、製品を安全に正しくご使用いただき、お客様やほかの方々への危害や財産への損害を未然に防止するためのものです。



お読みになったあとは、本製品を使用される方がいつでも見られる所に必ず保管してください。

## 「警告」「注意」について

誤った取り扱いをすると生じることが想定される内容を、危害や損害の大きさと切迫の程度により区分して掲載しています。

## 記号表示について

本製品や取扱説明書に表示されている記号には、次のような意味があります。

注意喚起を示す記号	
禁止を示す記号	
行為を指示する記号	



**警告**

「死亡する可能性または重傷を負う可能性が想定される」内容です。

## 異常に気づいたら



必ず実行

下記のような異常が発生した場合、すぐに電源を切り、電源プラグをコンセントから抜く。

- ・電源コード/プラグが破損した場合
- ・製品から異常なおいや煙が出た場合
- ・製品の内部に水や異物が入った場合
- ・使用中に音が出なくなった場合
- ・製品に亀裂、破損がある場合

そのまま使用を続けると、感電や火災、または故障のおそれがあります。至急、お買い上げの販売店またはヤマハ修理ご相談センターに点検や修理をご依頼ください。

## 電源



禁止

電源コードが破損するようなことをしない。

- ・ストーブなどの熱器具に近づけない
- ・無理に曲げない
- ・傷つけない
- ・電源コードに重いものをのせない

感電や火災の原因になります。



必ず実行

電源は本製品に表示している電源電圧で使用する。

誤って接続すると、感電や火災のおそれがあります。



必ず実行

電源コードは、必ず付属のものを使用する。

故障、発熱、火災などの原因になります。

付属の電源コードは日本国内専用(125Vまで)です。



禁止

付属の電源コードをほかの製品に使用しない。

故障、発熱、火災などの原因になります。



必ず実行

電源プラグのほこりをきれいに拭き取る。

感電やショートのおそれがあります。

必要に応じて、定期的にはこりを拭き取ってください。



必ず実行

電源プラグは根元まで確実に差し込む。

火災やショートのおそれがあります。



必ず実行

**本製品をコンセントの近くに設置する。**

電源プラグに容易に手の届く位置に設置し、異常を感じた場合にはすぐに電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いてください。また、電源を切った状態でも電源プラグをコンセントから抜かないかぎり電源から完全に遮断されません。電源プラグに容易に手が届き、操作できるように設置してご使用ください。



必ず実行

**長時間使用しないときは、必ずコンセントから電源プラグを抜く。**

火災や故障の原因になります。



禁止

**雷が鳴りだしたときは、本製品や電源プラグに触らない。**

感電の原因になります。

**接続**必ず  
接地接続**・ 接地接続は必ず、主電源プラグをコンセントに差し込む前に行う。****・ 接地接続の取り外しは、必ず主電源プラグをコンセントから抜いた状態で行う。**

電源コードには、アース線が付いています。必ずアース線を接地接続してから、電源プラグをコンセントに差し込んでください。確実に接地接続しないと、感電や火災、または故障の原因になります。

必ず  
接地接続**電源プラグは保護接地されている適切なコンセントに接続する。**

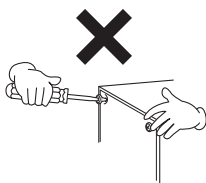
確実に接地接続しないと、感電や火災、または故障の原因になります。

**分解禁止**

禁止

**本製品を分解したり改造したりしない。**

感電や火災、けが、または故障の原因になります。本製品の内部には、お客様が修理/ 交換できる部品はありません。

**水に注意**

禁止

- ・ 本製品の上に花瓶や薬品など液体の入ったものを置かない。
- ・ 浴室や雨天時の屋外など湿気の多いところで使用しない。

内部に水などの液体が入ると、感電や火災、または故障の原因になります。



禁止

**ぬれた手で電源プラグを抜き差ししない。**

感電のおそれがあります。

**火に注意**

禁止

**本製品の近くで、火気を使用しない。**

火災の原因になります。

**聴覚障害**

必ず実行

**電源を入れたり切ったりする前に、必ず本製品や接続している機器の音量(ボリューム)を最小にする。**

聴覚障害、感電または機器の損傷の原因になることがあります。



必ず実行

**オーディオシステムの電源を入れるときは、本製品をいつも最後に入れる。電源を切るときは、本製品を最初に切る。**

聴覚障害やスピーカーの損傷の原因になることがあります。



**注意** 「傷害を負う可能性が想定される」内容です。

## 電源



必ず実行

電源プラグを抜くときは、電源コードを持たずに、必ず電源プラグを持って引き抜く。電源コードが破損して、感電や火災の原因になることがあります。

## 設置と接続



禁止

付属のスピーカーアレイをほかの製品で使わない (STAGEPAS 1Kなど)。  
故障、発熱、火災などの原因になることがあります。



禁止

不安定な場所や振動の多い場所に置かない。  
本製品が転倒して故障したり、けがをしたりする原因になります。



禁止

本製品を子供の手の届くところに置かない。  
本製品は子供がいる可能性のある場所での使用には適していません。



禁止

本製品の通風孔(放熱用スリット)をふさがない。  
内部の温度上昇を防ぐため、本製品の背面には通風孔があります。通風孔をふさぐと、製品内部に熱がこもり、故障や火災の原因になることがあります。



禁止

放熱のため、本製品を設置する際は、

- 布やテーブルクロスをかけない。
- 天面以外を上にして設置しない。
- 風通しの悪い狭いところへは押し込まない。

製品内部に熱がこもり、故障や火災の原因になることがあります。本製品の周囲に上30 cm、左右30 cm、背面30 cm以上のスペースを確保してください。



必ず実行

設置後は必ず安全性を確認する。定期的に安全点検を実施する。  
落下や転倒して、けがをする可能性があります。



必ず実行

取扱説明書で指示された方法で組み立てて設置する。  
落下や転倒して、けがや破損の原因になります。



禁止

本製品を組み立てた状態で持ち運びしない。  
スピーカーやスピーサーに頭をぶつけるなど、けがをしたりする原因になります。



禁止

塩害や腐食性ガスが発生する場所に設置しない。  
故障の原因になります。



必ず実行

本製品を移動するときは、必ずすべての接続ケーブルを外した上で行う。  
ケーブルをいためたり、お客様やほかの方々転倒したりするおそれがあります。



必ず実行

本製品を持ち運ぶ場合は、必ず2人以上で行う。  
本製品を1人で無理に持ち上げると、腰を痛めたり、本製品が落下して破損したり、お客様やほかの方々けがをしたりする原因になります。



禁止

スピーカーのリアパネルを壁に押しつけない。  
スピーカーを壁に押し付けると、電源プラグやスピーカーケーブルが壁に接触し、電源コードが外れてショートするなど、故障や火災の原因となるおそれがあります。

## お手入れ



必ず実行

本製品をお手入れをするときは、必ずコンセントから電源プラグを抜く。  
感電の原因になることがあります。

## 取り扱い



禁止

本製品の通風孔に手や指を入れない。  
けがをするおそれがあります。



禁止

本製品の上ののったり重いものをのせたりしない。  
本製品が破損したり、けがをしたりする原因になります。



禁止

音がはずんだ状態では本製品を使用しない。  
本製品が発熱し、火災の原因になることがあります。

# 使用上のご注意

## ■ 製品の取り扱い/お手入れに関する注意

- テレビやラジオなど、他の電気製品の近くで使用しない。  
本製品、または他の電気製品に雑音が生じる原因になります。
- 極端に温度の高いところや低いところ、ほこりや振動の多いところで使用しない。  
本製品のパネルが変形したり、内部の部品が故障したり、動作が不安定になったりする原因になります。
- 温度変化が激しい場所に設置しない。  
製品内部や表面に結露が発生し、故障する原因になります。
- 結露が発生しているおそれがあるときは、しばらく放置してから電源を入れる。  
結露した状態で電源が入ると、故障の原因になります。
- 本製品上にビニール製品やプラスチック製品、ゴム製品などを置かない。  
パネルの変色/変質の原因になります。
- お手入れのときは、乾いた柔らかい布を使用する。  
次亜塩素酸ナトリウム、アルコール、ベンジン、シンナー、洗剤、化学ぞうきんなどで製品の表面を拭かない。  
変色/変質する原因になります。
- バランス出力をアンバランス機器に接続する場合は、各機器間のグラウンド電位を合わせる。  
グラウンド電位が合っていないと、故障の原因になります。アンバランス(不平衡)機器接続ケーブルの配線はピン3: コールドとピン1: グラウンドを接続してお使いください。

# お知らせ

## ■ 製品の機能/データに関するお知らせ

- XLRタイプコネクタのピン配列は、以下のとおりです(IEC60268規格に基づいています)。  
1: グラウンド(GND)、2: ホット(+)、3: コールド(-)

## ■ 取扱説明書の記載内容に関するお知らせ

- この取扱説明書に掲載されているイラストは、すべて説明のためのものです。
- その他、本書に記載されている会社名および商品名等は、各社の登録商標または商標です。

## ■ 廃棄に関するお知らせ

- 本製品は、リサイクル可能な部品を含んでいます。廃棄される際には、廃棄する地方自治体にお問い合わせください。

データが破損したり失われた場合の補償や、不適切な使用や改造により故障した場合の補償はいたしかねますので、ご了承ください。

高調波電流規格 JIS C 61000-3-2 適合品

# 目次

---

安全上のご注意.....	166
使用上のご注意.....	169
お知らせ .....	169
はじめに .....	171
特長 .....	171
同梱品 .....	171
オプション品.....	171
各部の名称と機能.....	172
トップパネル.....	172
リアパネル.....	173
クイックスタートガイド .....	175
スピーカーアレイ / スペーサーを組み立てる.....	175
マイク / 楽器 / オーディオ機器をつなぐ .....	175
スピーカーから音を出す .....	175
片付けと保管.....	177
困ったときは.....	178
一般仕様 .....	179
入力仕様.....	180
出力仕様.....	180
寸法図 .....	181
ブロック図.....	182
アフターサービス.....	183

## はじめに

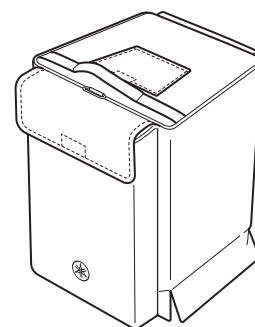
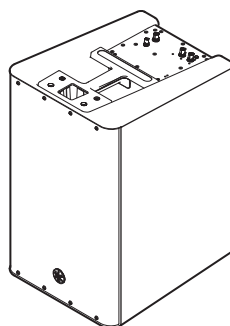
このたびは、ヤマハ DXL1K をお買い求めいただきまして、まことにありがとうございます。本製品は、音楽イベントやライブなどで使用するパワードスピーカーです。本製品のさまざまな機能を十分にご活用いただくために、ご使用前にこの取扱説明書を必ずお読みください。また、お読みになったあとも、大切に保管してください。

### 特長

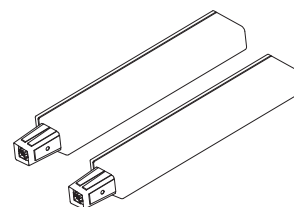
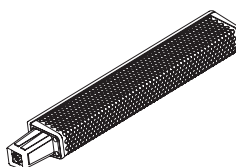
- コラムタイプの 2 ウェイバイアンプパワードスピーカー
- スピーカーアレイをサブウーファーに差し込むだけの簡単セットアップ
- 広いエリアを均一にカバーするスピーカーアレイ
- 迫力ある低域を再生する 12 インチサブウーファー
- 1,100 W の高効率 Class-D アンプを搭載
- スピーカーアレイやスペーサー、サブウーファーを 1 つに収納する機能的なカバーを付属
- DM3、TF シリーズ、MG シリーズのような小型ミキシングコンソールと組み合わせたコンパクトな PA システムに最適
- STAGEPAS 1K mkII やもう 1 台の DXL1K と組み合わせてステレオまたはマルチスピーカーシステムに拡張可能

### 同梱品

- サブウーファー 1 台
- 専用カバー 1 枚



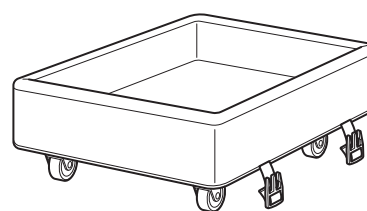
- スピーカーアレイ 1 台
- スペーサー 2 本



- 電源コード 1 本
- 3 芯 -2 芯変換アダプター 1 個
- 取扱説明書 (本書) \* 保証書は 184 ページにあります。

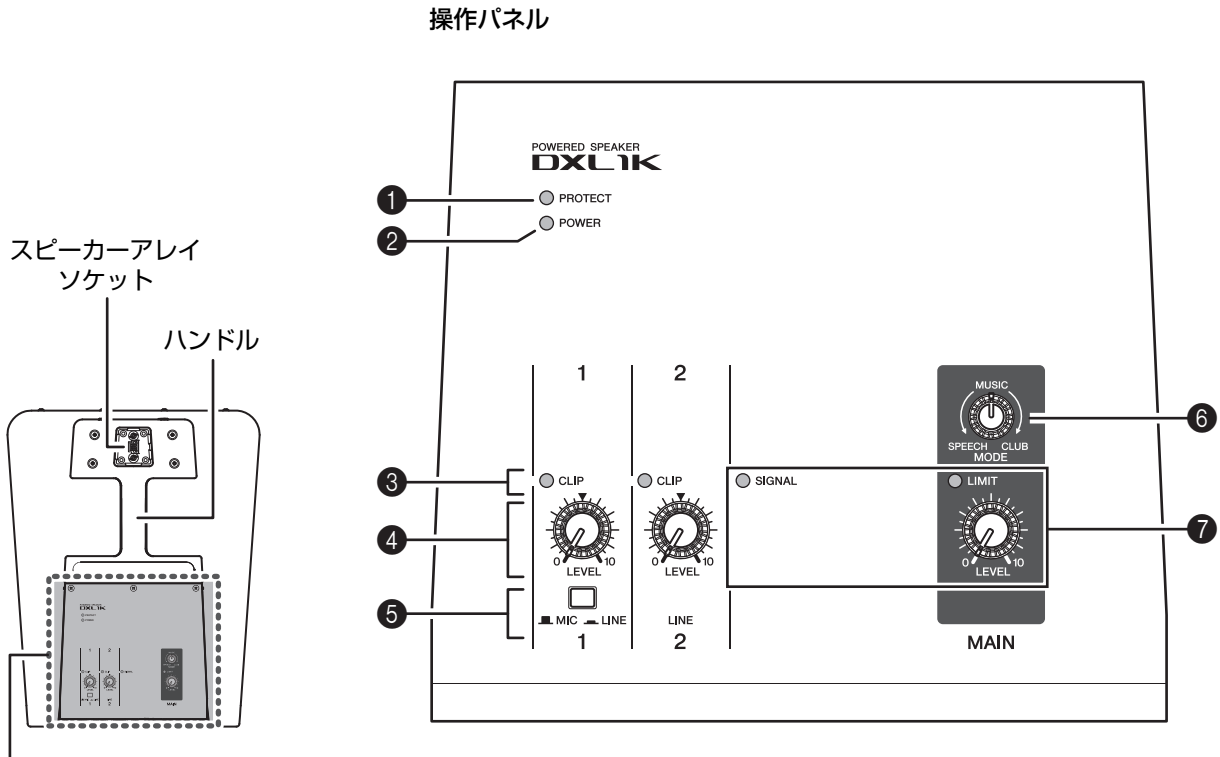
### オプション品

- 専用台車 DL-SP1K



# 各部の名称と機能

## トップパネル



操作パネル

### ① [PROTECT] LED

保護回路が作動すると点灯（赤）します。以下の場合に保護回路が作動し、スピーカーへの出力がミュートされます。

- 電源をオンにした場合  
電源をオンにしたときは、ノイズ防止のため、数秒間、保護回路が作動します。正常に起動するとインジケーターが消灯します。
- アンプの過熱を検出した場合
- 過電流を検出した場合

保護回路が作動した場合、アンプ部の温度が下がるまで待つか、電源を入れ直すと復帰します。復帰しない場合は、ヤマハ修理ご相談センター（183 ページ）にお問い合わせください。

### ② [POWER] LED

(13) の [I/O]（電源）スイッチをオンにすると点灯（緑）します。

### ③ [CLIP] LED

過大入力で信号がクリップしたときに点灯（赤）します。点灯したときは、各入力チャンネルの LEVEL を下げるか、[MIC/LINE] スイッチを LINE に切り替えてください。

### ④ [LEVEL] ツマミ

各チャンネルの音量を調節します。ノイズを減らすために、使わないチャンネルのつまみは最小「0」にしておいてください。

### ⑤ [MIC/LINE] スイッチ（チャンネル 1）

マイクなどの入力信号のレベルが低い機器を接続した場合には [MIC] (■)、電子楽器やオーディオ機器などの入力信号のレベルが高い機器を接続した場合には [LINE] (▲) にします。

### ⑥ [MODE] ツマミ

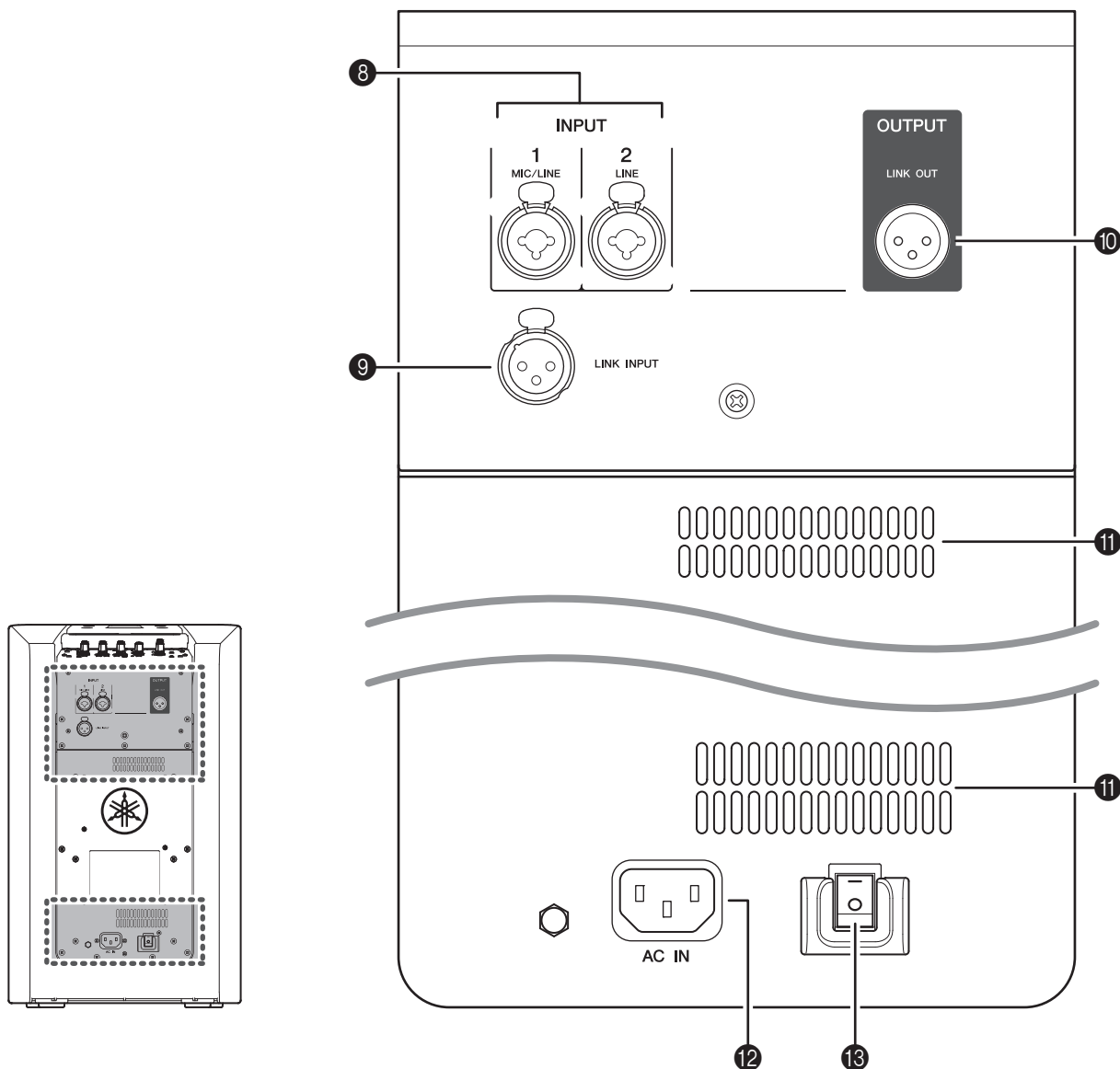
全体の音の音圧を整え、周波数バランスを調節します。センター位置（MUSIC）を基本として左（SPEECH）に回すと低音域が抑えられ、生楽器での弾き語りやスピーチに適した特性になります。右（CLUB）に回すと高音域と低音域が強調され、音源再生に適した特性になります。

### ⑦ [MAIN LEVEL] ツマミ / [LIMIT] LED/[SIGNAL] LED

スピーカーから出力される音量と [LINK OUT] 端子への信号レベルを連動して調節します。各チャンネルの音量バランスを変化させることなく、全体の音量だけを調節します。一定レベル以上の出力で [SIGNAL] LED が点灯（緑）します。また、リミッターがかかったときに、[LIMIT] LED が点灯（赤）します。

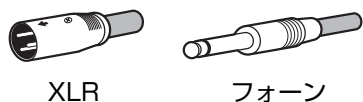


## リアパネル



### ⑧ マイク / ライン入力端子 (チャンネル 1 ~ 2)

マイク、ギター、電子楽器、オーディオ機器などを接続します。XLR、フォーンの両プラグに対応したコンボ端子です。



XLR

フォーン

### ⑨ [LINK INPUT] 端子

XLR タイプのプラグに対応した端子です。入力した信号は直接スピーカーから出力されます。音量、音質のコントロールは、接続する STAGEPAS 1K mkII またはミキサーで調整してください。

### ⑩ [LINK OUT] 端子

XLR タイプのプラグに対応した端子です。ミックスされた信号を、別の DXL1K に出力します。別のパワードスピーカーを接続することもできます。

### ⑪ 通風孔

本製品内部の冷却ファン用の通風孔です。使用時はふさがないようにしてください。

## ⑫ [AC IN] 端子

付属の電源コードを接続します。まず本体と電源コードを接続し、次に電源プラグをコンセントに差し込みます。

電源コードを接続したり、取り外したりする前に必ず電源をオフにしてください。

## ⑬ I/O (電源) スイッチ

本体の電源をオン (I) / オフ (O) します。音源 (外部機器)、本体、[LINK OUT] 端子に接続した機器の順に電源をオンしてください。電源をオフにするときは、逆の順にオフにしてください。

### ご注意

電源スイッチがオフの状態でも微電流が流れています。長時間使用しないときは、必ず電源コードを電源コンセントから抜いてください。

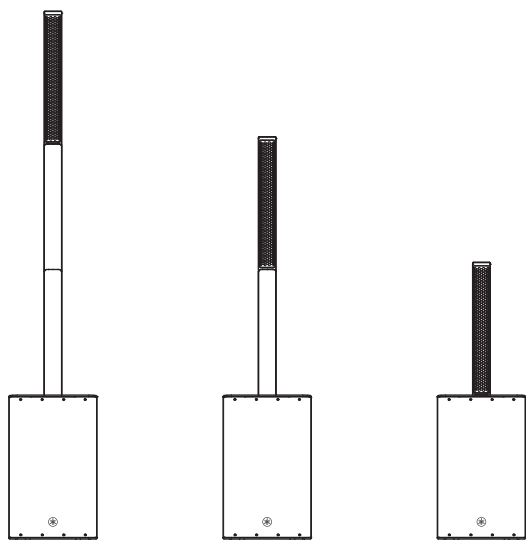
### NOTE

電源のオン / オフを連続してすばやく切り替えると誤動作の原因になることがあります。電源をオフにしてから再度オンにする場合は、5 秒以上の間隔を空けてください。

# クイックスタートガイド

## スピーカーアレイ / スペーサーを組み立てる

スペーサーを使用するなどして、観客の耳と同じ高さにはスピーカーアレイを設置します。グリルがついているものがスピーカーアレイです。



スペーサー 2本    スペーサー 1本    スペーサーなし

1. スピーカーアレイとスペーサーを、スピーカーアレイソケットに1本ずつ奥までしっかり差し込みます。スペーサーは必要に応じた本数を使用してください。

### NOTE

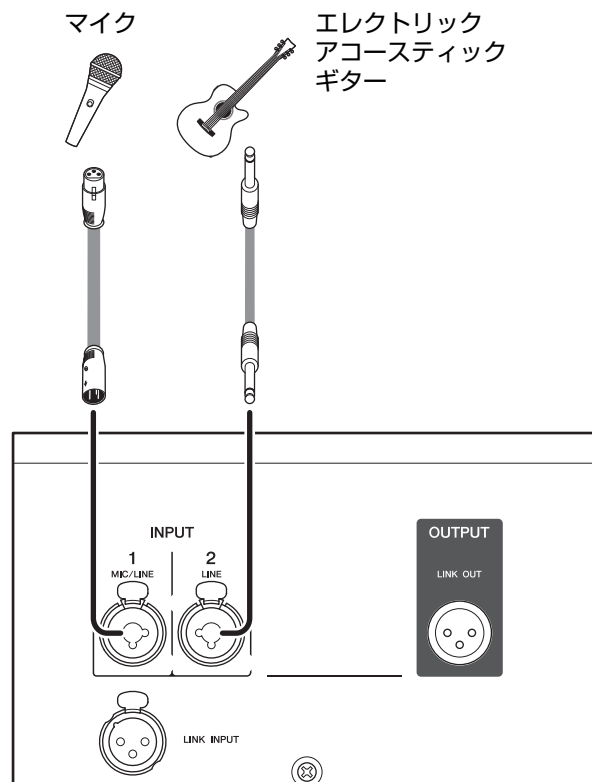
スピーカーアレイやスペーサーはソケットにしっかりと差し込んでください。端子が十分に接触しないと音が出ない原因となります。



## マイク / 楽器 / オーディオ機器をつなぐ

接続をする前に、[LEVEL] ツマミは反時計方向に回し、音量を最小にしてください。

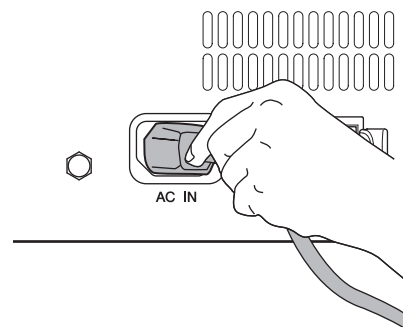
### ■ 接続例



## スピーカーから音を出す

電源スイッチがオフになっていることを確認します。

2. 付属の電源コードのプラグを本体リアパネルの[AC IN]端子に接続します。



**3. 電源コードのもう一端のプラグを電源コンセントに接続します。**



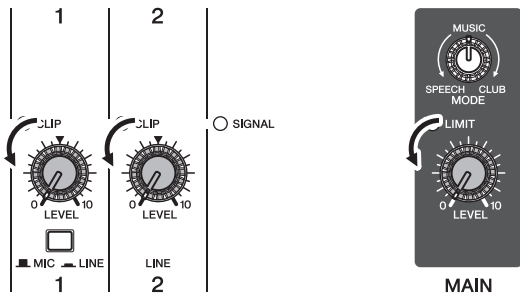
**警告**

- DXL1K は、アース接続を行うことを前提として設計されています。感電と機器の損傷を防ぐため、付属の電源コードを使ってアース接続を確実に行ってください。なお、接続方法がわからないときは、巻末のヤマハ修理ご相談センターにご相談ください。
- 電源コードは、必ず付属のものをお使いください。他の電源コードを使用すると、発熱や感電の原因になります。付属の電源コードは日本国内専用（125V まで）です。

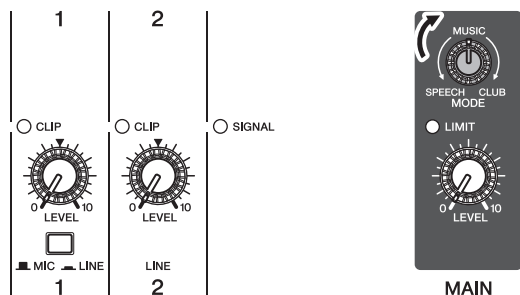
**ご注意**

電源スイッチがオフの状態でも微電流が流れています。長時間使用しないときは必ず電源コードを電源コンセントから抜いてください。

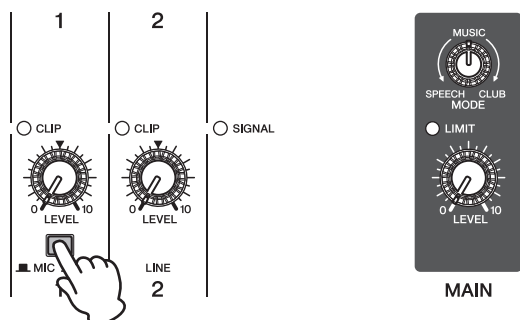
**4. MAIN LEVEL (赤のツマミ) と LEVEL (白のツマミ) を「0」に下げます。**



**5. MODE (黄色のツマミ) を「MUSIC」に合わせます。**

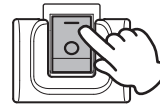


**6. チャンネル1 にマイクを接続した場合は、MIC/LINEスイッチはMIC (■) に、楽器やオーディオ機器などを接続した場合は、LINE (▬) にします。**

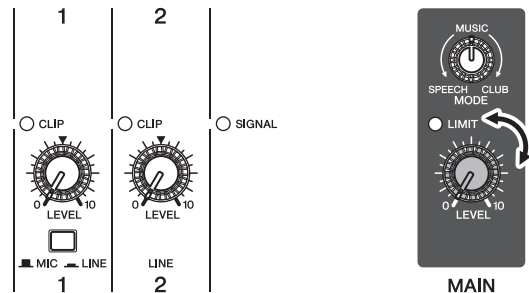


**7. 楽器やオーディオ機器などの電源をオンにしてから、本体の電源をオンにします。**

[POWER] LED が点灯します。



**8. MAIN LEVEL を適切な音量に調節します。**



**9. マイクや楽器で音を出しながら、LEVEL で各チャンネルの音量を調節します。**

**10. MAIN LEVEL で全体の音量を調節します。**

音が出れば、準備は完了です。音が出ない場合は、「困ったときは」(178 ページ) のチェック項目をご確認ください。

**NOTE**

電源をオフにするときは、スピーカーから大きなノイズが出ないようにするため、本体→楽器やオーディオ機器の順で電源をオフにしてください。

**音量が大きすぎたり、小さすぎたりするときは？**

**■ 音量が大きすぎるとき**

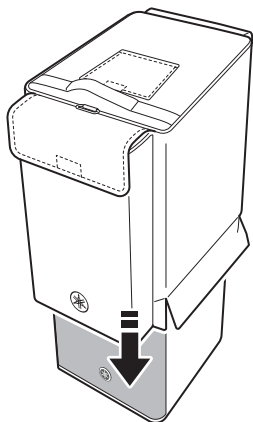
いったん LEVEL で該当するチャンネルの音量を「0」に下げます。MIC/LINE スイッチを LINE (▬) に切り替えてから、徐々に LEVEL を上げて音量を調節します。

**■ 音量が小さすぎるとき**

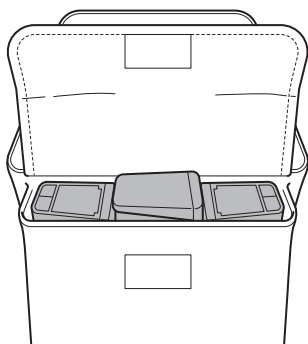
いったん LEVEL で該当するチャンネルの音量を「0」に下げます。MIC/LINE スイッチを MIC (■) に切り替えてから、徐々に LEVEL を上げて音量を調節します。

## 片付けと保管

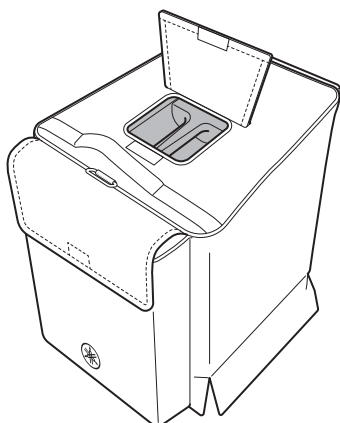
1. DXL1Kに付属の専用カバーを上からかけます。



2. ロゴマークのついている側のサイドポケットにスピーカーアレイとスパーサーを収納します。



カバー上部のフラップを開くと、本体のハンドルをそのまま掴んで持ち運びができます。



### NOTE

オプション品の専用台車 DL-SP1Kについては、「DL-SP1K取扱説明書」をご参照ください。

## 困ったときは

---

### 電源が入らない

- 電源コードを奥までしっかり差し込みましたか？

### 突然、電源が切れた

- 本製品の通風孔をふさいでいませんか？  
放熱が不十分で本製品に熱がこもると、過熱保護のため電源が切れます。冷却用の通風を確保してから、再度電源を入れてください。

### 音が出ない

- スピーカーアレイやスパーサーをソケットにしっかり差し込みましたか？  
スパーサーやソケットへの差し込みが浅いと、端子が十分に接触せずに音が出ない原因となります。
- [PROTECT] LED が点灯していませんか？  
内蔵のパワーアンプに過大な負荷がかかると、保護のためアンプがミュートして音が出なくなります。しばらくすると自動復帰します。

### 音がひずんだり、雑音が入る

- 各チャンネルの LEVEL や MAIN LEVEL が上がりすぎていませんか？
- [MIC/LINE] スイッチが MIC になっていませんか？  
音源からの入力レベルが大きい場合、[MIC/LINE] スイッチを MIC にしていると、音がひずむことがあります。スイッチを LINE にしてみてください。
- 本製品に接続した機器のボリュームが大きすぎませんか？  
外部機器のボリュームを下げてみてください。

### 音が小さい

- 各チャンネルの LEVEL や MAIN LEVEL が下がりすぎていませんか？
- [MIC/LINE] スイッチが LINE になっていませんか？  
LEVEL を「0」にしてからスイッチを MIC に切り替えて、徐々に LEVEL を上げてみてください。
- 本製品に接続した機器のボリュームが小さすぎませんか？  
外部機器のボリュームを上げてみてください。

### 高音・低音のバランスが悪い

- スピーカーから高音域は出ていますか？  
高音が出ていない場合は、スピーカーアレイがしっかり差し込まれているかご確認ください。

上記を確認しても、症状が改善しない場合は、ヤマハ修理ご相談センターにお問い合わせください。

# 一般仕様

## ■ 主要規格

システムタイプ	パワードサブウーファー+ラインアレイスピーカー
再生周波数帯域 (-10 dB)	37 Hz ~ 20 kHz
公称指向角度 (水平 × 垂直)	170° × 30°
クロスオーバー周波数	240 Hz
最大出力音圧 (実測値ピーク、IEC ノイズ@1 m)	125 dB SPL
電源電圧	100 V、50/60 Hz
消費電力	25 W (Idle)、91 W (1/8 出力)
寸法 (W×H×D)	システム (最大) 334×2,000×418 mm
質量	23.0 kg

## ■ 操作パネル

ミキシングチャンネル数	2
アナログ入力	1 モノ マイク/ライン + 1 モノライン LINK IN (MONO)
エフェクター	MODE (SPEECH/MUSIC/CLUB)
出力	LINK OUT (MONO)

## ■ アンプ部

定格出力	Dynamic	1,100 W (サブウーファー : 500 W、スピーカーアレイ : 600 W)
------	---------	--

## ■ スピーカー部

形式	スピーカーアレイ	: 密閉型
	サブウーファー	: パスレフ型
コンポーネント	スピーカーアレイ	: 1.5" (3.8 cm) コーン × 10
	サブウーファー	: 12" (30 cm) コーン
寸法 (W×H×D)	スピーカーアレイ	: 67×582×86 mm
	スぺーサー (1 本あたり)	: 67×555×86 mm
	サブウーファー	: 334×550×418 mm
質量	スピーカーアレイ	: 1.8 kg
	スぺーサー (1 本あたり)	: 0.6 kg
	サブウーファー	: 20.0 kg

## ■ アクセサリー

付属品	電源コード × 1、3 芯 -2 芯変換アダプター × 1、専用カバー × 1、取扱説明書
別売アクセサリー	DL-SP1K (専用台車)

\* 本書は、発行時点での最新仕様で説明しています。最新版は、ヤマハウェブサイトからダウンロードできます。

## 入力仕様

入力端子	端子仕様		MIC/LINE SW	入力インピーダンス	適合インピーダンス	入力レベル*1		
						感度*2	ノミナル*3	最大ノンクリップ
CH IN1	XLR コンボ	XLR	MIC	3 k $\Omega$ (Balance)	150 $\Omega$ Mics/Lines	-50 dBu	-36 dBu	-10 dBu
			LINE			-24 dBu	-10 dBu	+16 dBu
		Phone	MIC	10 k $\Omega$ (Balance)	150 $\Omega$ Mics/Lines	-44 dBu	-30 dBu	-4 dBu
			LINE			-18 dBu	-4 dBu	+22 dBu
CH IN2	XLR コンボ	XLR	-	10 k $\Omega$ (Balance)	150 $\Omega$ Lines	-24 dBu	-10 dBu	+16 dBu
		Phone	-	10 k $\Omega$ (Balance)	150 $\Omega$ Lines	-18 dBu	-4 dBu	+22 dBu
LINK INPUT	XLR-3-31 タイプ		-	20 k $\Omega$ (Balance)	150 $\Omega$ Lines	+10 dBu	-	+24 dBu

\*1. 0 dBu=0.775 Vrms

\*2. INPUT VOLUME=MAX

\*3. INPUT VOLUME= ノミナル (Center position)

## 出力仕様

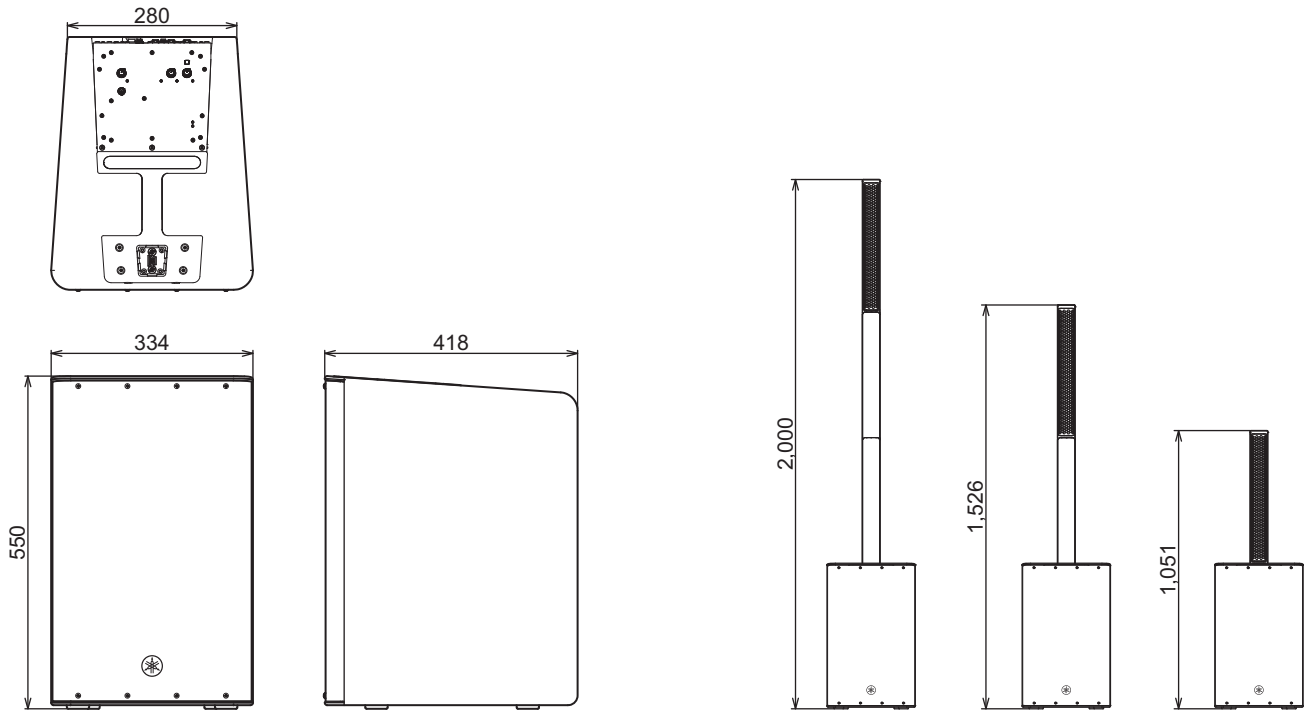
出力端子	端子仕様	出力インピーダンス	適合インピーダンス	出力レベル*1	
				ノミナル	最大ノンクリップ
LINK OUT	XLR-3-31 タイプ	75 $\Omega$	10 k $\Omega$	+10 dBu	+24 dBu

\*1. 0 dBu=0.775 Vrms

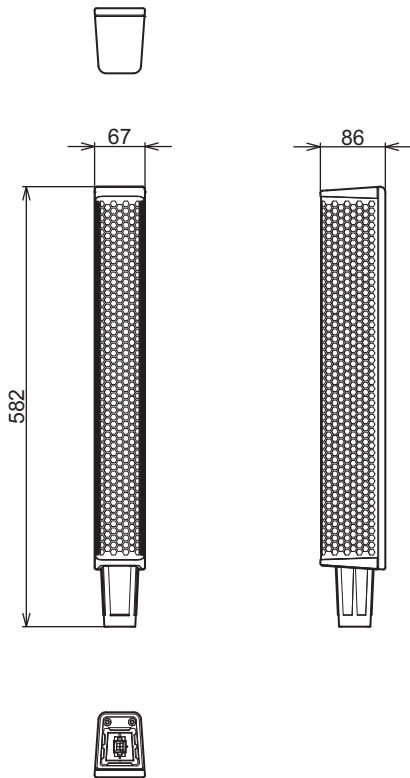


# 寸法図

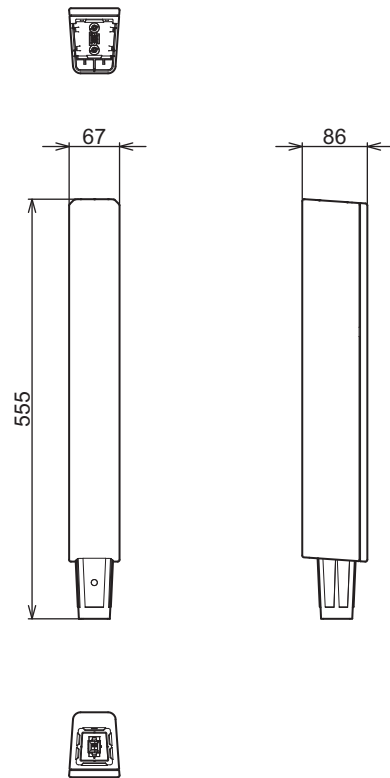
## ■ サブウーファー



## ■ スピーカーアレイ

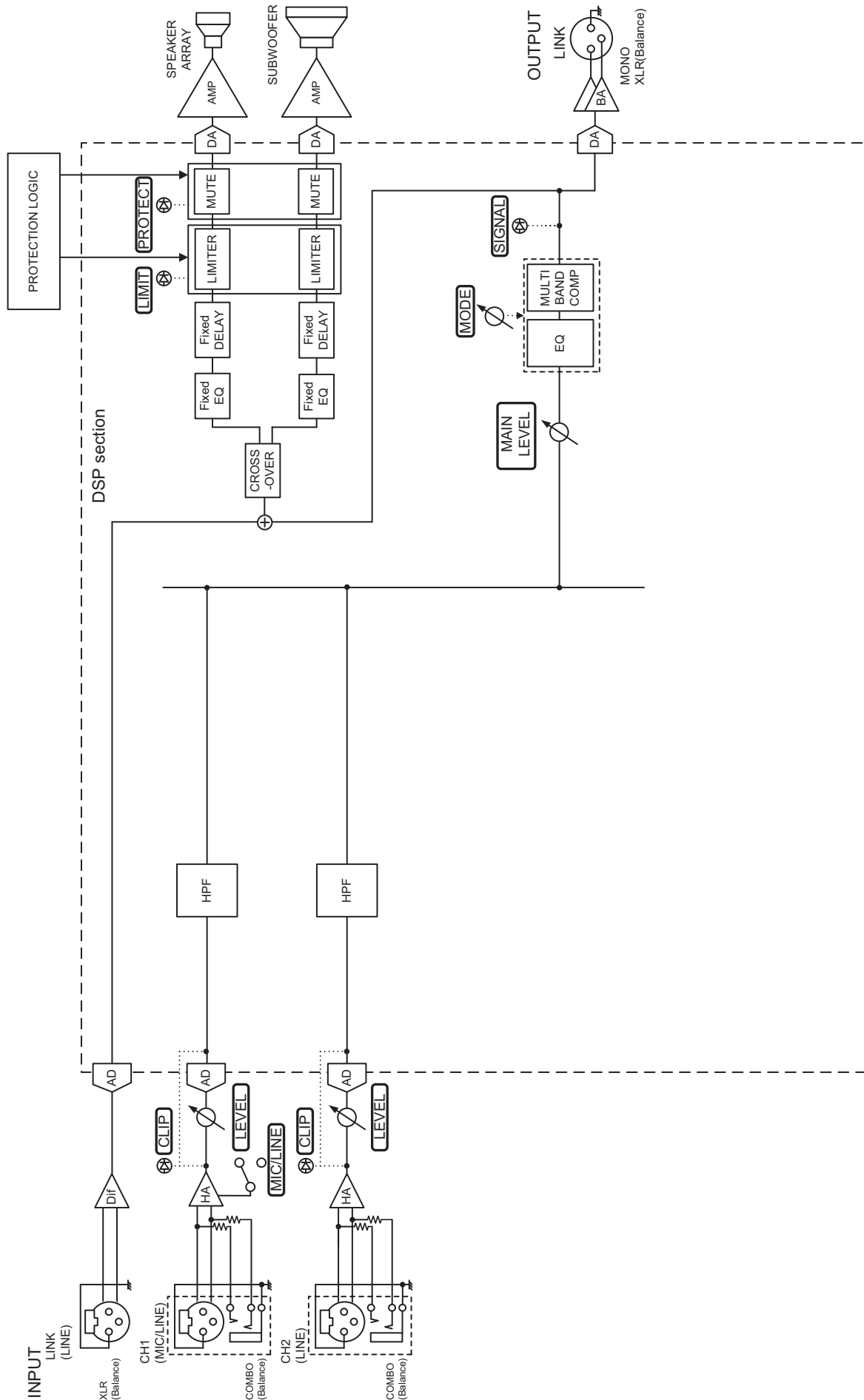


## ■ スペーサー



単位：mm

# ブロック図



# アフターサービス

## お問い合わせ窓口

お問い合わせや修理のご依頼は、お買い上げ店、または次のお問い合わせ窓口までご連絡ください。

### ●機能や取り扱いに関するお問い合わせ

ヤマハ・プロオーディオ・インフォメーションセンター

 **0570-050-808**

※固定電話は全国市内通話料金でご利用いただけます。  
通話料金は音声案内で確認できます。

上記番号でつながらない場合は **03-5488-5447**

受付時間 月曜日～金曜日11:00～17:00  
(土曜、日曜、祝日およびセンター指定休日を除く)

オンラインサポート <https://jp.yamaha.com/support/>

### ●修理に関するお問い合わせ

ヤマハ修理ご相談センター

 **0570-012-808**

※固定電話は全国市内通話料金でご利用いただけます。  
通話料金は音声案内で確認できます。

上記番号でつながらない場合は **053-460-4830**

FAX **03-5762-2125** 東日本(北海道/東北/関東/甲信越/東海)  
**06-6649-9340** 西日本(北陸/近畿/四国/中国/九州/沖縄)

**修理品お持ち込み窓口**

東日本サービスセンター  
〒143-0006 東京都大田区平和島2丁目1-1  
JMT 京浜 E 棟 A-5F  
FAX 03-5762-2125

西日本サービスセンター  
〒556-0011 大阪府大阪市浪速区難波中1丁目13-17  
ナンバ辻本ビル 7F  
FAX 06-6649-9340

**受付時間**  
月曜日～金曜日 10:00～17:00  
(土曜、日曜、祝日およびセンター指定休日を除く)

### ●販売元

(株)ヤマハミュージックジャパン PA 営業部  
〒103-0015 東京都中央区日本橋箱崎町41-12  
KDX 箱崎ビル

## 保証と修理について

保証と修理についての詳細は下記のとおりです。

### ●保証書

本書に保証書が掲載されています。購入を証明する書類(レシート、売買契約書、納品書など)とあわせて、大切に保管してください。

### ●保証期間と期間中の修理

保証書をご覧ください。保証書記載内容に基づいて修理させていただきます。お客様に製品を持ち込んでいただくか、サービスマンが出張修理にお伺いするのは、製品ごとに定められています。

### ●保証期間経過後の修理

ご希望により有料にて修理させていただきます。使用時間や使用環境などで劣化する下記の有寿命部品などは、消耗劣化に応じて交換が必要となります。有寿命部品の交換は、お買い上げ店またはヤマハ修理ご相談センターまでご連絡ください。

#### 有寿命部品

フェーダー、ボリューム、スイッチ、接続端子など

### ●補修用性能部品の最低保有期間

製品の機能を維持するために必要な部品の最低保有期間は、製造終了後8年です。

### ●修理のご依頼

本書をもう一度お読みいただき、接続や設定などをご確認のうえ、お買い上げの販売店またはヤマハ修理ご相談センターまでご連絡ください。修理をご依頼いただくときは、製品名、モデル名などとあわせて、製品の状態をできるだけ詳しくお知らせください。

### ●損害に対する責任

本製品(搭載プログラムを含む)のご使用により、お客様に生じた損害(事業利益の損失、事業の中断、事業情報の損失、そのほかの特別損失や逸失利益)については、当社は一切その責任を負わないものとします。また、いかなる場合でも、当社が負担する損害賠償額は、お客様がお支払いになったこの商品の代価相当額をもって、その上限とします。

\* 名称、住所、電話番号、営業時間、URL などに変更になる場合があります。

持込修理

## 保証書

品名	パワードスピーカーシステム	
品番	DXL1K	
※シリアル番号		
保証期間	本体	お買上げの日から1年間
※お買上げ日	年 月 日	
お客様	□□□□-□□□□	
	ご住所	
	お名前	
	電話	( ) 様

ご販売店様へ ※印欄は必ずご記入ください。

本書は、本書記載内容で無償修理を行う事をお約束するものです。お買上げの日から左記期間中に故障が発生した場合は、本書をご提示の上お買上げの販売店に修理をご依頼ください。ご依頼の際は、購入を証明する書類(レシート、売買契約書、納品書など)をあわせてご提示ください。

(詳細は下項をご覧ください)

※販売店	店名	( )	印
	所在地		
	電話		

株式会社ヤマハミュージックジャパン PA営業部  
〒103-0015  
東京都中央区日本橋箱崎町41番12号 KDX箱崎ビル  
TEL. 03-5652-3850

## 保証規定

- 保証期間中、正常な使用状態(取扱説明書、本体貼付ラベルなどの注意書に従った使用状態)で故障した場合には、無償修理を致します。
- 保証期間内に故障して無償修理をお受けになる場合は、商品と本書をご持参ご提示のうえ、お買上げ販売店にご依頼ください。
- ご贈答品、ご転居後の修理についてお買上げの販売店にご依頼できない場合には、ヤマハ修理ご相談センター\*にお問合わせください。
- 保証期間内でも次の場合は有料となります。
  - 本書のご提示がない場合。
  - 本書または購入を証明する書類(レシート、売買契約書、納品書など)にお買上げの年月日、お客様、お買上げの販売店の記入がない場合、及び本書の字句を書き替えられた場合。
  - 使用上の誤り、他の機器から受けた障害または不当な修理や改造による故障及び損傷。
  - お買上げ後の移動、輸送、落下などによる故障及び損傷。
  - 火災、地震、風水害、落雷、その他の天災地変、公害、塩害、異常電圧などによる故障及び損傷。
  - お客様のご要望により出張修理を行う場合の出張料金。
- この保証書は日本国内においてのみ有効です。  
This warranty is valid only in Japan.
- この保証書は再発行致しかねますので大切に保管してください。
  - この保証書は本書に示した期間、条件のもとにおいて無償修理をお約束するものです。したがってこの保証書によってお客様の法律上の権利を制限するものではありませんので、保証期間経過後の修理などについてご不明の場合は、お買上げの販売店、ヤマハ修理ご相談センター\*にお問合わせください。
  - ご記入いただきましたお客様のお名前、ご住所などの個人情報は、本保証規定に基づく無料修理に関する場合のみ使用致します。取得した個人情報は適切に管理し、法令に定める場合を除き、お客様の同意なく第三者に提供することはありません。

\* その他の連絡窓口につきましては、本取扱説明書をご参照ください。

**雅马哈乐器音响（中国）投资有限公司**

上海市静安区新闻路 1818 号云和大厦 2 楼

客户服务热线：4000517700

公司网址：<https://www.yamaha.com.cn>

制造商：雅马哈株式会社

制造商地址：日本静冈县滨松市中区中泽町 10-1

进口商：雅马哈乐器音响（中国）投资有限公司

进口商地址：上海市静安区新闻路 1818 号云和大厦 2 楼

原产地：印度尼西亚

**台灣山葉音樂股份有限公司**

YAMAHA MUSIC & ELECTRONICS TAIWAN CO.,LTD.

<https://tw.yamaha.com>

總公司：(02) 7741-8888 新北市板橋區遠東路 1 號 2 樓

客服專線：0809-091388

**ヤマハ株式会社**

〒430-8650 静岡県浜松市中区中沢町10-1

Yamaha Pro Audio global website  
<https://www.yamahaproaudio.com/>  
Yamaha Downloads  
<https://download.yamaha.com/>

Manual Development Group  
© 2022 Yamaha Corporation  
Published 05/2022  
2022年5月 发行  
IPEI-A0

VFA9430